

夕刊

# 読賣新聞

2008年(平成20年) 1月31日 木曜日

発行所  
読賣新聞東京本社  
第47382号

〒100-8055  
東京都千代田区大手町1-7-1  
電話 (03) 3242-1111(代)  
http://www.yomiuri.co.jp/

7年間一緒に暮らしてきた愛犬アリンを日本ドッグホーム協会に送り出す吉田ふみ子さん。別れの日、「お嫁に出すみたいだ」と話す(1月20日、神奈川県・藤沢市内の自宅で)



写真を見ながら花子の体調を心配する新谷柊子さん(東京都内で)

犬や猫は飼われていた時の名前と呼ばれ、個性に合わせた生活をさせることが心がけられている(静岡市内の「日本ドッグホーム協会」で)



また一緒に暮らすまで

「おかあさん、お身体の調子はどうですか?」コメント付きの花子の写真を手にした瞬間、ベッドの上の新谷柊(しほ)子さん(75)の顔がほころんだ。都内の病院に入院している新谷さんの愛犬花子は、今、静岡市のボランティア団体「日本ドッグホーム協会」の施設で飼われている。

様々な理由で一緒に暮らすことができなくなったペットの犬や猫を無料で引き取り、世話をしている。その数は200匹を超えるという。ペットたちの住まいは、ミカン貯蔵庫や豚舎を改造した建物など。1匹ずつ小型のオリに入れて飼っている。協会の活動資金は、賛助会員の会費や寄付などでまかなわれている。

## ぬくもり

餌代、医療費などがかさみ、財政状況は厳しいという。だが、同協会の白井昭夫さんは「預けたペットともう一度暮らすことを目標に、飼い主のお年寄りが頑張って、元気になるうと思ってくれば」と思っています。ペットを処分し、負い目を感じながら残りの人生を過ごしてほしくない」と話す。ペットたちを救うことで、お年寄りたちを励ましたいと考えている。同協会では、京都や千葉などにも支部を作る計画を進めている。温かさの輪が広がるうとしている。(写真と文、三輪洋子)